

ともの家 だより

平成26年 夏 第48号
発行 社会福祉法人ともの家

役割の発揮で自信の回復と笑顔のある生活を実現する

～運営基本方針より～

〒790-0101 松山市溝辺町甲 94

【Tel】 089-977-8502 【Fax】 089-907-8504

【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp 【Home Page】 <http://www.tomo-home.jp>



平成 26 年度事業報告


理事長 永和良之助

当法人の 2013 年度の事業活動収入は、初めて 2 億円を超え、2 億 2710 万円に達した。未だ弱小法人であることに変わりはないが、認知症グループホームを 3 か所、小規模多機能居宅介護を 2 か所、サービス付き高齢者住宅を 1 か所設置運営し、職員も正職員だけで 35 名になるなど着実に歩んでいるといえよう。

昨年度は、アンジュール、この道、シニア住宅パレットに加え、松山市鷹子町に所有していた 920 坪余の用地に太陽光パネルを設置し、売電事業を始めた。反原発、脱原発推進への寄与と、この国の政治状況からして、今後、社会福祉の充実が望み難いことから、福祉サービスの質を保ち、職員の待遇改善を図るためには新たな収入源を確保する必要があると考え、始めたものである。年間 1800 万円程度の収入が見込まれるので、今後の法人の財政基盤の強化に資するところ大であると考えている。

問題はケアの質の向上であるが、NHKが松山市を含む全国 5 か所で開催した認知症フォーラムにおいて、愛媛県内で質の高い認知症ケアを実践している施設として、当法人の小規模多機能ホーム第二ともの家が選ばれた。愛媛県民文化会館で開催されたフォーラムでは（5月11日）、担当ディレクターが泊まり込み、収録した映像が紹介されるとともに、管理者の永和里佳子が第二ともの家で実践しているケアの実際を説明したが、ともの家のケア理念に裏付けられたケア水準の高さが、映像と相まって参加者によく伝わり、高い評価を得た。

最後に職員の有資格状況について。当法人の 2014 年 3 月末現在の介護職は、常勤 32 名、非常勤 7 名、計 39 名となっており、このうち介護福祉士の資格取得者が 25 名（64.1%）である。実務経験 3 年以上の受験資格を得て合格した者が大半で、ともの家に入職し 3 年以上勤務している者は、全員が介護福祉士の資格を取得している。資格イコール専門性を保証するものではないが「サービスの質は職員の質によって保証される」を運営理念としている当法人は、今後とも一層の研鑽に励むことを一人ひとりの職員に求めたい。



続・介護ひまなし日記③

小規模多機能ホーム第二ともの家 永和里佳子

今回のともの家だよりのテーマは、「役割の発揮により自信の回復と笑顔のある生活を実現する」だと聞いた。認知症介護において“役割づくり”が大切だと言われ続けている。が、果たして介護の現場で、この文句をどこまで理解して実践できているのだろうか、と思う。

先日、理事長主催の管理者研修を受け、チームマネジメントの大切さについて学んだ。人間が何人か集まれば、価値観も意見もさまざまであり、チームとして統一を図るのは難しい。強権的なリーダーが方向を決めてしまうことも可能だが、正しいことを押し付けるだけでは人は変わらない。認知症ケアと同じで「説得より納得」、全員で考えてコンセンサスを図ることこそが大事なのだと教わった。その時のコンパス（指針）となるのが法人の掲げる理念である。

そこで、現場を振り返ってみる。本当に生命が輝ける場面を作っているのか？心からの笑顔で感謝を伝えているのか。こちらが与えた“役割”ではなく、真にその人に“役割”を求め、その人を必要としているのか。

私は、TLC（Tender Loving Care）だけが人間としての自信を回復させると信じている。だが本当に心からお年寄りに向き合おうとすると、かなりの力を使う。単なる仕事だから、労働の対価として接するのでは相手の心はつかめない。介護保険制度施行後、職業としての介護は知名度を上げている。が、稼ぐためと割り切ったドライな「職業人」が増えた結果、逆に、社会福祉としての介護は衰退しているのではないか。

『誰もが幸せな高齢社会を求めて』（あけび書房）の第2章で、永和理事長は介護保険制度以前の「現場志向」、「志を持った人々（市民）の側からの実践」について述べている。

「実践を伴わなければ社会福祉は成り立ちません。実践の無い社会福祉などありえないからです。私は利用者と深くかかわるケア実践の中から理論構築をしていくことが必要だと思います。」

「非営利の、高い志をもった、理想的な福祉を追求する」ことこそが、ともの家の理念であると理解する。パソコンに向かって美辞麗句を連ねるのではなく、地を這うような実践を繰り返し、より人間に近づきたい。常にそう思っている。

実践

【役割の発揮で自信の回復と笑顔のある生活を実現する～運営基本方針より～】

に沿った、各事業所の取り組みを紹介いたします。

アンジュールともの家

文章：菅原佐代子

今日も「私がやるよー」と言われて、台所に立ち、せっせと皿洗いや、かたづけをされるOさん、野菜切りも洗濯物たたみも、お願いすると、職員顔負けの見事さでしてくださいます。先日は、髪のカットに来てくれた散髪屋さんに「お茶を出してあげたら」と職員に言われ、職員がアイスコーヒーを用意し、持っていくのをお願いすると、少し躊躇しながらも「こんなもので、すみません」と言いながら、お接待してくださいました。その後は散髪屋さんや職員と談笑、とっても満足された表情で、ご機嫌に過ごされました。



Sさんは長年高校の校長をされていて、まさにリーダーです。いろんなことに目配りされていて、「管理ができていない」と一括されたり、「これはたいへん良い」とほめ言葉もたくさんくださいます。毎日新聞の短歌の選者もされていたそうで、職員の歌の指導をお願いしたり、色紙に書かれた自作の歌をリビングの壁に飾らせてもらっています。

ピアノを弾きながら、「一生懸命やっています」と言われるHさん、歌うことが好きで、場を盛り上げてくれるYさん、Kさん、人の役割はいろいろですが、できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向け、それがその人の喜びになるような働きかけがたくさんできるようにしていきたいと思います。そして、年を重ねて、いろんなことができなくなっても、「生きていてくれて、ありがとう」と、近しい者にとっての心の支えや感謝という役割を大切に援助させてもらいたいとも思っています。

ともの家この道

文章：花崎秀美

この道は、入居者が男性3名、女性6名で、平均要介護度4.0のグループホームです。内、介護度4と5で7名が占め、重度化が進んでいるのが現状ですが、ひとり一人に合わせて出来る限り、普通の生活を送って頂くことを目標としています。

役割の発揮という点では、大袈裟に考えず日々の暮らしの中で行われる事(家事など)への参加や、趣味や嗜好を披露して頂いています。

専業主婦だった（介護度4）方は、毎日の食器やテーブル拭き、本部事務所への通信物の受け取りなどを協力していただいております。自分から「何かしようか〜」「何でもするよ」と、積極的に関わってくださり、食器を一枚一枚音を立てずに丁寧に拭いて下さる姿は、長年主婦として家庭を担ってこられた証だと思えます。お礼を述べると、「ありがとう言ってくれた」と、喜び、また、何故か「こんなことしてすみません」と謝罪の言葉を述べられることもあります。

歌の得意な方は、毎日のように歌っておられ、ご自分から「歌いましょうか？」とおっしゃることもあり、一人が歌い始めると、皆で大合唱になることも度々あります。歌は、皆大好きで、時には涙され、時には笑顔で、朗々と歌い上げてくださる姿は圧巻です。囲碁の得意な方は、自室で、一人囲碁をして腕を磨き、「囲碁敵がおらんかのう〜」と相手を探され、相手が見つかると、大喜びで、大はしゃぎ、笑顔満開で碁盤の前に座り熱戦を繰り広げられます。

入居者の方それぞれが、自信を持ち、笑顔で過ごすことが出来るように、私たちは、援助していきたいと思えます。笑顔を引き出すためには、身近にいるスタッフが、まず笑顔でいることが一番です。スタッフの笑い声につられて入居者も笑う場面が多く見られます。重度の方も、笑い声や、明るい声掛けで、安らぎを感じる暮らしを実現させていきたいと考えています。

溝辺ともの家

文章：大窪理紗

人にはそれぞれ、自覚のあるなしに関わらず役割があるように思います。その中でも自分自身が「思っている」役割を發揮できたとき、お年寄りはとても輝きます。今回はそのような例を紹介させていただきます。

夏祭りが終わり、浴衣を洗って来年に備えます。職員が洗って干したはいいいものの、たたみ方がわかりません。そこで、いつも率先して洗濯物をたたんで下さり、和裁のお仕事もしていたというAさんをお願いすることにしました。すると「これは私の専門よ！」と一言おっしゃると「この端とここをあわせて…」と説明つきでたたんでくださいました。たたみ終え職員がお礼を言うと、何とも誇らしげな表情をされていました。

これからもお年寄り自身が思う、ご自分の役割を發揮できる機会を提供していきたいと思えました。



毎日、昼食が終わると数名の利用者さんに食器拭きを手伝っていただいています。利用者さんの方から「食器拭き、ないの～」と声があがることもあるくらい、日課として定着しています。「今日は少ないね～。どして～？」などの声も聞かれ、利用者さん同士で「今日は、〇〇だからじゃない？」などと、会話のきっかけにもなっています。

また、毎日ではありませんが、食事作りのお手伝い(野菜切り、お汁の味付けなど)をできる方に手伝っていただいています。「そがなことできんよ～」と言われながらも、長年主婦をされていただけに、丁寧に作って下さいます。

テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物畳みもほぼ毎日、手伝っていただきます。量も多いため利用者さん同士で助け合いながら自然と会話も弾み、あっという間に片づけてくれています。本当に感謝です！



雀百迄踊り忘れず、昔取った杵柄とはよく言われますが、包丁を渡すと小芋の皮をキレイに剥いたり、針と糸で上手に雑巾を縫ったり、長い菜箸を巧みに操り、ちゃんと人数分のお皿へ均等におかずを配ったり、人によってペースが速かったり遅かったりしますが、何事も危なげなくこなします。最後に「ありがとうございました。」と声をかけると誰しもニコッと笑ってくれます。そして大抵の人が「お安い御用よ。」と言ってくれるのです。そういった繰返しを一回でも多く増やせるよう色々取り組みできました。食事の度に配膳をお願いしたり、食器を洗ってもらったり、拭いてもらったりその度に前述のニコッをいただくのです。

雨垂れ石を穿つ世の例え、そういった積み重ねが自信の回復になると信じています。それとは別に純粹に日常を楽しんでもらおうと、色んな所へ足を運ぶ事を目標に、お出掛けイベントに力を入れて取り組みました。納経帳を用意して伊予十三佛を巡ったり、季節の買い物・食事を楽しむため内子まで行ってみたり、涼を求めて山や海を目指したり。今という一瞬を共に楽しむため、これからも努力を惜しまないつもりでいます。



合同遠足～バラ公園～

小規模多機能ホームともの家 古川晃

今年も毎年、恒例になりつつある、吉海バラ公園への外出を行いました。昨年と同様に、家族、職員、利用者から多数の参加をして頂きました。

松山から、今治の吉海(大島)まで、なかなかの遠出ではありましたが、体調を崩されることもなく、大成功で無事にともの家まで帰ることができました。バラ公園では、事業所ごとでの散策でしたが、みなさん、思い思いに回られ、楽しまれていたと思います。綺麗なバラをバックに記念撮影を行ったり、多数あるバラの名前を見て、名前の由来を考えたりと、いろいろな楽しみ方をしておられました。



散策した後、待ちに待った昼食タイムです。暑い中、散策をした後の食事は格別でした。利用者もみなさん、よく召し上がっておられました。(利用者よりも食事を楽しんでいた職員もいましたが…)帰りのバスでは、暑い中、散策を行い、おいしい食事を召し上がった後なので、みなさん居眠りモードになっていました。(行きよりもお元気になっていた方もおられました…)みなさんのご協力もあり、今年も無事に春の遠足を行うことができました。ありがとうございました。また、外出の計画を立て、出来るだけ多くの方に参加していただきたいと思います。



夏祭り

アンジュールともの家 石丸寛子

7月26日、毎年恒例の「ともの家の夏祭り」が開催されました。今年の夏祭りは蒸し暑かったのですが、地域の方や家族さんなど、多くの方がともの家に集まってくださり、賑やかで楽しい時間を過ごされました。利用者の方、スタッフも全員浴衣や甚平に身を包み参加しました。女性利用者の方々はお化粧をされ、髪飾りを付けたり、男性利用者の方々も髪型をビシッと決め、準備万端に整え参加されました。



真夏の夕暮れ時、家族さんと一緒に、おでんやお寿司、かき氷などの模擬店や盆踊りなど、利用者さんとその家族の方、職員全員を忘れて歌って踊って楽しい時間を過ごしておられました。

参加された皆様暑い中、参加していただきありがとうございました。





平成 26 年度の実践研究発表は…

11 月の発表に向け、現在各事業所で取り組んでいる
研究テーマと簡単な内容を紹介します。

アンジェールともの家『排便ケアの見直し』

内容：アンジェールでは 9 名中 5 名が、ラキソベロンやマグミットを服用して
いることから、一人ひとりに応じた排便や、薬以外にご本人と一緒にで
きる事を考え、生活習慣を見直し、改善に取り組みたい。

ともの家この道『拘縮緩和への取り組み』

内容：S さん、N さん、W さんの拘縮の緩和を目指して、マッサージなどの取り
組みを行う。

溝辺ともの家『看取りから一転、意欲向上を目指す』

内容：昨年 9 月に入所した S さんの生活に焦点を当て、腎臓疾患がありながら
生活の質の向上に努める取り組みを行い、意欲がなく自暴自棄となった背
景を探り、自ら意欲的に生活することを目指す。

小規模『若年性認知症の人へのケア模索 ～Y さんの事例を通して～』

内容：平成 25 年 11 月よりともの家に来られた Y さんがどのように過ごされ職
員がどう関わっていったのかをまとめる。また、若年性認知症についてさ
らに理解を深めるとともに Y さんに関係のある方からも情報を集め今後
のケアに活かしていく。

小規模第二『生活改善への取り組み』

内容：今年度「生活改善化委員会」を作り、チーム A、B に分かれてそれぞれ
「軽度者（要介護 3 まで）」「重度者（要介護 4 以上）」を対象に生活の質
を高める取り組みを行っている。その中の F さん（要介護 2）に焦点を当
て、いかに生活を改善していくかに取り組むたい。

発表会日程

平成 26 年 11 月 10 日(月) / 11 月 25 日(火)

ぜひ、お越しください。



介護職員からのメッセージ



小規模多機能ホームともの家 重見千春

はじめは溝辺ともの家の2階、平成17年5月からアンジュールともの家の2階でのデイサービスの職員として入り、現在は小規模多機能ホームともの家で働かせていただいています。ともの家での仕事を通じて、たくさんの人と出会いました。随分前の話になりますが、利用者Kさんはある日、少し離れた所に居られた男性利用者さんを見て「あれは敵か？味方か？！」と私に聞かれ思わず「味方です！」と答えました。今思い出しても顔がニンマリしてしまいます。今まで大変なこともありましたが、楽しいことや嬉しいことも多々ありました。また、人生の先輩である利用者の方々にはたくさんのことを教えられ、助けられてきたような気がします。この仕事に就かなければ会うことのなかったお一人おひとりが「人間らしい生活」「普通の暮らし」ができるようお手伝いできればと思います。

お知らせ

とものいえ文庫誕生



本年3月末で大学を退職した理事長より、研究室にあった膨大な書籍のうち職員に推奨する本を588冊寄贈いただきました。薄給の職員への奨学本か“もっと勉強せい”の親心かはともかく、大いに利用して実力を高めましょう。文庫はアンジュールともの家2階のダイルーム書棚です。貸し出しノートに記入しておおむね2週間の貸し出し期間でご利用ください。職員のみではなく一般・家族も利用できます。



文章：総施設長 永和淑子

ともの家ホームページについて



ともの家ホームページのドメイン名が変わりました。

検索しても出てこない場合は <http://tomo-home.jp/> と直接入力して下さい。

編集後記

ついに巣立って行きました。前号の編集後記を書いた頃は、タマゴもなく親鳥が巣の修繕中でした。小さな巣にギュウギュウに詰まった雛が日に日に大きくなっていくにつれ、フンの量も比例して多くなり成長を感じる日々。現在再び空っぽの巣を見上げて嬉しいような、寂しいような。さて来年は…。大窪(溝)

